

## 安来高校植物図鑑（2021年4月）

### 和名: カラスノエンドウ（烏野豌豆）

野原や畑、道端など、日当たりの良い場所ならどこにでも生えており、安来高校でもあちこちで見ることができます。羽状複葉と呼ばれる葉のつけ根に、紅紫色の蝶形花が咲きます。ほとんどの人は花よりも、豆果(下の写真)を見て「ピーピー豆だ!」と言うことでしょうか。子どもの頃、膨らんだ豆果を採って細工し、口にくわえて息を吹き込み、ピーピーと笛のように鳴らして遊んだ経験はありませんか。私にとっては小学校からの帰り道、定番の遊びでした。この豆果は熟すと真っ黒になります。その色をかラスに例えてこの名前があるそうです。小葉の先が矢筈(ヤハズ)状にへこんでいることからヤハズエンドウという別名もあります。葉の先端には3つに枝分かれしたまきひげがあり、このひげで他の植物にからみついて立ち上がっていきます。さらに、葉のつけ根には蜜腺があって、アリが蜜を舐めにやってきます。種子は1つのさやの中に5~10個できます。右の写真は9個でしょうか。



羽状複葉

### 和名: スズメノエンドウ（雀野豌豆）

カラスノエンドウと同じくマメ科エンドウ属の植物です。カラスノエンドウより小さいので、「烏(カラス)」より小さい「雀(スズメ)」に例えて、スズメノエンドウという名前になりました。花はとて小さく、写真を撮るのには苦労しました。花の長さは3mm程度、1カ所に3~7個の花がつきます。写真のように4個の花がつくのが標準的だそうです。種子は1つのさやの中に2個できます。



### 和名: カスマグサ（かす間草）

こちらと同じくマメ科エンドウ属の植物です。カラスノエンドウよりは小さく、スズメノエンドウよりは大きいので、「カ」ラスと「ス」ズメの「間」ということからカスマグサになりました。ウソのようなホントの話です。種子は1つのさやの中に普通4個できます。カラスノエンドウ、スズメノエンドウ、そしてカスマグサの3種が混在して自生している安来高校の校地は、多様性が高いのだなあと感じました。



### 和名: スイバ（酸い葉）

背が高く、最大で1m程度になります。茎や葉にシュウ酸が含まれており、食べると酸っぱい味がするので「酸い葉」という名前がつけられました。数年前、生徒と一緒に野外観察をしていた際、スイバを紹介したら「小学生の頃、葉っぱを食べたよね。」と言っていました。私は全くその経験がなく、ビックリしたのを覚えています。ちなみに、茹でると酸っぱい味は無くなります。雌雄異株で、雌株と雄株で花が違うのですが、今回の左写真の個体は雌株です。上の方には花が咲き、下の方には果実ができていました。右上写真の赤い糸くずのようなものが雌花です。右下写真が膨らみ始めた果実です。

